

## 金銅阿弥陀如来立像

熊野神社の阿弥陀如来立像は、全長四六・九センチの金銅仏で、上品下生の来迎印相であるが、右手は欠け木で補作している。

頭部の大きな螺髪、両肩から全身をおおう納衣の動的な深い彫り面長でととのった面相など、鎌倉時代以降の作と考えられている。

所在地 慶徳町新宮 熊野神社



錫杖 しやく

杖 じょう

錫杖は「声杖」ともいわれ、僧侶や山伏の持ち物として重要なものであった。もとは僧侶が山野を歩くとき、これを振りながら毒虫などを追い払い、また托鉢たくはつして家に入ろうとするとき、門前でこれを鳴らして来訪を告げるために用いられた。

しかし後には実用とはなれて、単に僧侶の持ち物となり、経を読むときの調子取りにも用いられるようになった。上部は金属でつくり、数個の鑲かみをかけてある。熊野神社のものは、室町時代の作のように考えられる。

所在地 慶徳町新宮字熊野 熊野神社

